

山行報告書

作成:2012年7月24日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	浅間山(浅間山外輪山)	目的[方法]	合宿に向けたトレーニング
期間	2012年7月22日(日)	形態	日帰りハイキング
参加人数	3人		

行動記録: 天気 曇り

安城市某所(3:30) == 駒ヶ根 SA(5:00,5:25) == 小諸 IC(6:55) == 登山口駐車場、表ルート(7:25,8:00) -- トーミの頭(9:45) -- 黒斑山(10:10) -- 蛇骨岳(10:50) -- 仙人岳(11:05,11:30) -- 鋸岳、Jバンド(12:00) -- 賽の河原(12:45) -- 湯の平分岐(13:15) -- トーミの頭分岐(14:20) -- 中ルート分岐(14:25) -- 登山口(15:30,15:50) == 小諸温泉(16:25,17:35) == 小諸 IC(17:40) == 駒ヶ根 SA(19:15,19:45) == 豊田南 IC(21:10) == 安城市某所(21:20)

概念図:



日誌:

出発前、現地の天候があまりよくないとのこといろいろと調べてみるがどこも同じような感じなので変更せず浅間山へ向かう。移動中もトンネルを越えると天気が変わるという状況。駐車場に近くなると道路脇にニッコウキスゲが所々咲いている。駐車場到着時天気は曇りだが雨の降り出しそうな感じでもない。駐車場周りにはアヤマがきれいに咲いている。

出発は表ルート。すぐにオダマキ、ウスユキソウ、ハクサンフウロ、シャクナゲ、コマクサ等たくさんの花がみられた。写真を撮りながら進んでいるため予定より遅れ気味でトーミの頭に到着。最初ここがトーミの頭とは気がつかず黒斑山まで来て先ほどの所がトーミの頭だったと気がつく。トーミの頭から下をみると谷へ向かって緑の絨毯を広げたかのようなきれいな緑が広がっている。頂上こそガスで見えないが雄大な前掛山の山体もきれいだ。その美しさにはみんな感動していた。トーミの頭から下をのぞくと細い線が見え、小さく人が歩いているのがみとれる。あそこにも道があるのだと思っていたら最後この絶壁まで自分達が上がる道だとは思わなかった。トーミの頭分岐から下る予定だったが黒斑山まで来てしまった為、逆周りに変更する。

Jバンドの下りはかなりきつく足場も小岩ですべりやすい。賽の川原までくると前掛山、浅間山に小さく人が立っているのが見える。時間が押していたため前掛山は断念してトーミの頭へと戻る。今日一の急登で登山パンフでは60分となっているがすべてでパンフの時間を越えていた為、80分は覚悟する。途中、オダマキの群生に癒されながらキツイ登りを上がっていると急に大粒の雨。気温が低い蒸れないがこの登りに気温が高かったらとゾツとする。途中で私たちと逆に周っている夫婦とまた出会い、まだ半分くらいと告げられる。時間的には半分以上来ているはずだが上はモヤで見えないのであとどれくらいかもよくわからない。しばらく登ると急に広い所へ、すれ違う人に聞いてみるとここがトーミ-黒斑山の分岐であった。なんか拍子抜けだった。帰りは中ルートを選択。表ルートとは違い特に見るものもなく淡々と下山した。

浅間山周辺がこんなにも植生豊かとは思いませんでした。シャクナゲはいたるところで咲いていて見ごろでした。

気になったのは山の匂い。火山臭ではなく八角に似た感じの香りが山に漂っていた。他の山では感じたことのない匂いで気になりました。

感想:

浅間山というと火山というイメージがあったので岩だらけの山をイメージしていましたがこんなにも植生が豊かだと思いませんでした。一部きついところはありませんでしたが雄大な風景にも感動でした。かなり登りごたえのある山でした。

ただ最後の急登を15キロくらい背負って登れるかという、今の体力ではどうかな？という感じでした。

途中、急な雨に降られましたが先行してザックカバーをしたときにカッパもサイドネットに入れる、ザックに吊るすなどをしておけば雨の中ザックの中をかき分けて探すことはなかったと現場で気づくこともありました。

また、長距離を歩くためににも靴ずれを早く改善しないとけないと思います。